

NPO 法人日本空手松涛連盟静岡県本部

# 静岡松涛タイムス 第59号

発行元：静岡県本部広報部 責任者：滝田宏平

連絡先：0537-36-1238(TEL) 0537-36-1293(FAX)

E-mail：kouheichan@tiara.ocn.ne.jp

URL： <http://www.shizuoka-karate.com/> (公式 HP)

<http://www4.tokai.or.jp/sougou/> (広報部)

Photo：向日葵

## 第13回東海北信越地区空手道選手権大会



7月1日(日)福井県敦賀市総合運動公園体育館にて、第13回東海北信越地区空手道選手権大会が盛大に開催されました。静岡県からも多くの選手が出場し大会を盛り上げることができました。私の所属道場からも幼年から一般の各部に出場しました。結果は優勝・準優勝・3位や敢闘賞をいただくことができました。また入賞でなかった選手もいましたが、一生懸命、試合に取り組む姿が今でも思い出されます。東海北信越地区大会には全国大会で活躍している

選手が多く出場するので、この大会で試合が出来ることはとても有意義でありますし、次の段階へのステップアップの場と考えても良いと思いました。私自身も選手として、また審判として参加できたことで、とても充実した時間が過ごせました。今回大会に参加してみてとても良かったことは、開催地が遠方にもかかわらず、多くの選手が参加し、試合進行も順調に進み時間内にとどこおり無く終了できたことでした。これも福井県各支部スタッフの方々のご配慮による物と思います。来年は今年以上に多くの選手の参加を期待しています。(レポート：高洲支部鷹生館 小椋 明)

## 県本部主催強化練習



全国大会を翌週に控えた7月22日(日)に、静岡市北部体育館にて県本部主催の強化練習が行われた。参加対象は全国大会の出場者限定という事で、通常の練習とは異なり開始序盤より、テンポの良い練習が行われた。幼年から高校生までの少年部はもとより、一般2部以上や親子団体形の参加は、静岡県は全国で常にトップである。その為、今回の強化練習にはシニアやファミリーの参加が目立ち、県本部指導員より大会に向けての最終チェックを受けていた。午後からは試合形式での実戦が盛り込まれ、本番に向けて各選手の仕上げり具合を確認した。今年の全国大会は3年ぶりの東京での開催という事で、国内各地から大勢のエントリーがあった。大会での県内各支部の選手の活躍が期待される。

## 第13回全国空手道選手権大会

今年の全国大会は3年ぶりに東京・代々木第二体育館での開催となり、今年も静岡県から多くの選手が出場しました。私は県大会や東海北信越大会では審判に入るため、子供達の試合をほとんど見ることはできませんが、全国大会は監督として各学年の試合を見ることができる貴重な機会です。今大会は、自分の道場だけでなく様々な選手の試合を見ました。勝負の世界は厳しく、悔し涙を流さずに笑えるのは優勝者一人のみ。でも「勝つ」ことにも「負ける」ことにも必ず理由があります。当日の体調、怪我、組合せなど、様々な要因はありますが、一番大切なのは「空手道に対する情熱」だと思います。低学年の頃は運動神経や修行年数の差で勝ち負けが決まることが多いのですが、学年が上がるにつれて空手道に取り組む姿勢や情熱の差が、勝負に大きく影響していると感じます。試合を見ていて印象に残ったのは、上位に勝ち上がってくる選手は間違い無くみんな「目」が違うこと。「目」を見ただけで、「自分はこれだけ稽古してきたんだ!」「絶対に負けないぞ!」という全身にみなぎる気迫がこちらにまで伝わってきます。そしてその「目」や「気迫」は、試合の時だけ都合良く出すことはできません。普段の稽古から本気・全力で「大きな気合い」を出して、たくさんの汗を流した積み重ねから生み出されるものです。道場に来て、ただ言われたことだけをやっているだけでは、絶対に全国大会では勝てません。師範や指導員の声に真剣に耳を傾け、一つ一つの技の意味

を考え、理解し、常に相手を想定して、自分自身の全力を出して稽古している選手だけが、全国大会で勝つことができるのです。試合会場のコートに立った時に「稽古は充分やってきた。後はいつも通り全力でやるだけだ。」と心底思えた選手は、その時点で相手に関係なく勝っているのかもしれませんが。そして、我々指導者の役目としては、正しい立ち方・姿勢・技を身につけさせることも大切ですが、子供達の「本気」をどれだけ引き出せるかということもそれ以上に重要だと思います。来年の全国大会では、「今年の静岡県は目が違うな！」と言われるくらい、これから1年間、選手も指導者も「情熱」を持って頑張りましょう！最後に、昨今大きな社会問題となっている「いじめ」。香川主席師範も仰っていたように、空手家たる者、いじめる側にもいじめられる側にもなってはいけないし、見て見ぬふりをするような人にはなってはいけません。「強きをくじき弱きを助ける」この言葉を実践できるように、子供も大人も心身ともに強くなれるように、日々稽古に励みましょう。（レポート：清水支部烈士館 伏見 幸秀）



### ■平成 24 年度夏季合同合宿■



今年の夏も連日 30 度を超え、うだるような暑さの毎日が続いています。夏休みも終盤を迎えた 8 月 18・19 日に、菊川南陵高校にて恒例の夏季合同合宿が行われました。受付が始まる正午になると、続々と参加者が集まり、会場内の活気が高まります。整列後に合宿のスケジュールや注意事項の説明を受けた後、初日の稽古が行われました。毎年の事なのですが、この合宿は白帯から色帯さん、更には選手としてバリバリに活躍中のメンバーまで幅広い参加があります。そのため稽古もクラス別に編成され、それぞれがスキルアップを目指します。今回は入門したての初心者の参加が目立ち、初級クラスが特に盛り上がっていました。終了後、夕食と入浴タイムとなりましたが、この時間は参加した子供たちが最も楽しみにしている時間帯です。昼間の疲れなどなんのその、こちらも大いに盛り上がっていました。この合宿の目玉に、夜の座学があります。講師は、合宿会場となった南陵高校々長であり理事長の菊池伸幸先生(将陽館)が務めました。今回のテーマ「空手がもっと好きになって楽しくなる方法」をチャート式に解りやすく解説していただきました。2 日目は前日の復習を軽く行い、組手の練習試合が行われました。多くの選手は、自分の出番を待つ間もストレッチをしたり、2 人組になって間合いを確認する等、各自が時間を有効に使っているシーンが見られました。練習試合が終了すると合宿も終了です。その後昼食後に解散となりました。参加した皆さんお疲れ様でした。また指導いただきました先生方をはじめ、本合宿を裏方でサポートしていただいた、南陵高校空手部の皆さんやスタッフの方たちにはお世話になりました。皆さんのおかげで本年の合宿も大成功となりました。

### 平成 24 年度 9 月期昇段審査会

■少年部初段■	藤井 楓(精誠館)	越沼 香瑛(青島)	胸組 恭(西焼津)	古谷 智久(御殿場)	池野 嶺(精誠館)
望月 稜真(精誠館)	鈴木那都貴(精誠館)	鷲巣 凌太(静岡西)	小林 奏登(高 洲)	杉山 華梨(静岡西)	赤林 清宗(浜将陽)
大阪 由依(浜将陽)	山下 裕翔(川 根)	小倉 優志(静岡南)	井口 暁斗(島 田)	山内 雅也(岡 部)	朝比奈大輝(岡 部)
■一般部初段■	高橋 貴美(律誠館)	成瀬 勝一(島 田)	平浜裕美子(青 島)	恵 謙 (島 田)	谷村 大輔(島 田)
■少年部弐段■	菊池 武流(律誠館)	鈴木 龍斗(精誠館)	平成 24 年 9 月 9 日実施 受験者総数 27 名 合格者 24 名		